

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

個人因子等

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

●入院時担当：くも膜下出血 認知症

入院時入院拒否 暴力あり 入院されたが、せん妄あり生活リズムが整わない

●ナースコール活用困難：離床キャッチセンター 本人が気づいた 自尊心を傷つけたと思う

歩行器見守り 修正必要 あんた達いなくても大丈夫 易怒性あり

不安からか→帰宅願望出現 リハビリは好き 私たちが行き過ぎ？

●入浴拒否：人を変えてもだめ 浴室に行って理解する

スタッフはすっきりした気持ちを持ってもらいたいで何とかして入ってもらいたい

●帰宅願望：「帰りたい」繰り返す 詰め所に居てもらう眠剤を飲んでもらう

●おむつ外し 暴力行為あり

●ケア拒否 すべて自身ができるからとオムツ交換拒否在り

●内服拒否 「私は健康だから大丈夫」食前後あるが1回にまとめても拒否

②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ※グループでまずは1つ決める (1G)

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
脳梗塞 80歳台 男性 脳血管性認知症 高次脳機能障害 妻と二人暮らし 妻入院中 プライド高い 夜間たまに尿失禁 隠す（布団の中） リハビリをやらないといけないことはわかっている 食事自立 移乗、歩行器歩行は見守り センサー使用中	入院時よりナースコールが押せない 離床キャッチセンサー使用 歩き出しあり、立ち上がりも頻回 センサーで何回も訪室し声がけする センサーに気づいて 自尊心が傷つけられた ・・怒った 部屋から出てくる 奥さんに「電話してくれ」 帰宅願望強くでて、易怒性もある	<ul style="list-style-type: none"> ・自由にできないことにストレスを感じた ・病識が低い ・興奮時には説明が入らない ・自分が情けない（失禁あり漏らしちゃって） ・夫として立場 ・家の事が心配

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・担当スタッフが窓口になって、何かきっかけとなることはない
か探ってもらう
- ・カンファレンスにてADLの確認、声掛け・ケアの統一
- ・入浴中にはよく話す⇒気持ちを引き出す 寄り添う時間
- ・センサー解除へ向けて すぐに行くのではなく見守る
先に声掛けせず、かけられたら応じる
- ・部屋、ベット周辺の環境調整
今いる環境が決して悪い環境でないことを認識してもらう

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- 食事拒否 食べたくない、口を開けてくれない
- 入浴拒否 入りたくない、寒い、浴槽に入れないから入りたくない
 気分じゃない、汚れていない、入りたい時間じゃない
- 離床拒否 リハに行きたくないから
- 帰宅願望
- 薬拒否
- 抑制拒否

②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ✕グループでまずは1つ決める

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
80歳 女性 認知症 長髪 軽介助～見守り（お風呂が嫌いではない）	<p>13時から16時、毎回一旦拒否、シャワー浴、本人の気分次第、予定もあらかじめお知らせしている。2、3日入ってない説明するも結構です。と言われる。どうして入らないのか→昨日入ったから。夜に入るADL的に浴槽不可</p>	<p>まだリハがある・夜に入りたい自分でできると思っている本人は昨日入った気でいる寒い せわしなく、流れ作業裸、体系を見られたくない異性介助がいや リハで疲労がある体が痛い</p>
70歳 男性 左被殼出血 農家家族希望でリハビリ 車椅子自走洗身は自己で可能 トイレは拒否なし 優しく・できることはしてほしい方（そもそもお風呂嫌い）	<p>お風呂に行こうは拒否、男性介助だと拒否が多い。女性が柔らかく声掛けすると入ってくれることあり。常にお風呂の気分ではない（時間背景はなさそう）</p>	<p>食後すぐだから湯船につかれない家に帰ってから入るお風呂嫌い自身の現状を理解しきれていない介護に関して抵抗感がある（まだ自分は…）介助者があわない・関係性</p>

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・意見をくみ取り実現できるように動く
- ・日々コミュニケーション（関係性を作る）をとり拒否の理由等をききとり対応していく
- ・できるだけ本人の希望にそったスケジュールを作り、伝える（本人の思いを一回受け取る）
- ・患者さん1人を説得の時に何人もで困まない（悪者の気持ちになるかもしれない）

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- 入浴を促したときに拒否される
男女関係なく介助。
- 食事の場面で拒否される
- 食事の拒否、食べたくない
- 更衣をしたくない
- おむつ交換時に拒否される
- 入浴介助、お風呂に入りたくない
女性スタッフが介助することが多い
男性は男性スタッフが介助する

②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる

3G

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
入浴を促したときに拒否される <ul style="list-style-type: none"> ・認知症がある患者 ・80代 男性 ・風呂が苦手 ・入院前は自宅生活 独居 ・マイペースな性格 ・腰部圧迫骨折で入院 ・コルセットをしている ・歩行器で歩行している ・長時間座ることができない ・ストレッチャー浴 →シャワーチェアー浴に変更 ・病棟では入浴は3回／週 ・物忘れあり（入浴後も入っていないというときもあり） ・入浴後、気持ちよかったです ・介助自体に拒否はない ・リハビリできる時間も差がある ・男女関係なく介助。 	。 「風呂に行きましょう」と促すと 昨日に入ったから今日は入らないとい う。 →昨日は風呂に入っていないと伝え ても本人は入ったという。 <ul style="list-style-type: none"> ・男性が促して断られたため、女性 が促しても断られる ・午前中の入浴、部屋ごとに決めっ た時間があるためその時間に促した (拒否があれば午後に変更すること もあり) ・入浴時間が決まっていて、その前 後にリハビリを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・元々好きでない (自宅ではどのくらい入浴していな のか？ 1回/週？ どの時間に入って いたのか？) ・忘れているところもある ・寒いと思っているのでは？ ・洗濯の心配をしている ・痛みがあるのでは？ (内服タイミングに合わせた誘導) (以前は立ち上がり時など痛みを 言っていた) ・自分でできるから介助は不要と 思っている？ ・介助されるプライド ・過去に怖い思いをしたのではないか

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

入浴してもらうために今までに行っていること

- ・トイレに誘導し、その流れで風呂場に誘導する
- ・リハビリの流れで風呂に誘導する
- ・1回/週は入浴できるようにする。できなければ入浴以外の方
法で清潔を保つ
- ・時間のあるときに話を聞く、今までの生活を聞く
- ・拒否する理由を確認する

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- ・入浴拒否（2週間拒否しており、清拭も拒否、更衣のみ）
- ・帰宅願望
- ・食事の拒否（さっき食べたからいらない、家で食べる）
- ・リハビリの拒否（拒否の結果暴力につながってしまう）
- ・離床の拒否
- ・トイレの場所の認識がない人への関わり方
- ・昼夜逆転（眠れない患者への対応、声掛けの内容）

- ②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ×グループでまずは1つ決める

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
88歳女性 認知症 圧迫骨折 離床時コルセット着用 特浴対応 1度入浴できたがその後2週間入浴 できていない 午前男性浴、午後女性浴 自宅独居 拒否が強く暴言、暴力が出てしまう 家族はお風呂に入ってほしいという が、、、	入浴拒否 清拭 手と足以外拒否 食事以外拒否	异性のスタッフでの入浴介助 痛みに対しての恐怖、不安 見たことないところでの入浴 移乗への恐怖 目線を合わせて傾聴、ケアができていたのか 浴室内で「痛い！」という声が聞こえた

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・異性での入浴介助をなるべく行わない
- ・日常生活の中で痛みがあるのか、入院前はどのようなお風呂の入り方をしていたのかなど情報収集をする
- ・生活歴の情報収集、合わせたケア
- ・家族に入浴拒否をしているところを見てもらい、声かけの協力を行う。
- ・入浴用のコルセットを着用する
- ・浴室の温度調節

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- ・入浴：朝声掛けするが、普段はスムーズに誘導できるが、時折「今日は入らん」と拒否。時間をおいて声掛けするも拒否する。
- ・入浴：指示が入らない。スタッフが全て行うと思っており、本人に行うよう促すが、拒否する。その後のケアも拒否あり。
- ・リハビリ：体調不良、気分が乗らない、今日はリハビリはしたくない、時間をおいて声掛けするが1日リハビリできない。
- ・フットコールで駆けつけるが、なにをしたいのか、なにがしたいのか不明。声掛けを行うが、行動が読めない。指示が入らない。認知症のある方。肺塞栓症、せん妄、高次脳機能障害。尿便意かもしれないが、トイレへ行っても指示が入らない。暴力あり。
- ・オムツ交換：普段は穏やか。トイレでは座位保てず。日中のオムツ交換は穏やか。夜間は入眠中のこともあります、暴力や交換拒否、攻撃的になることがあります。脳梗塞、夜間せん妄あり。意図しないと、攻撃的になることがあります。

②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ※グループでまずは1つ決める

5G

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
80歳男性 脳塞栓症 認知症 高次脳機能障害 せん妄 左空間無視	<ul style="list-style-type: none"> ・指示が入らない ・NSコール押せず、フットコール ・車椅子設置、介助バーあり ・端坐位は見守り→車椅子移乗介助 ・車椅子に乗ってくれない ・日中歩行車歩行 ・左空間無視にて移動見守り ・足を下すとフットコール作動 ・トイレだらうと思い声掛けするが、指示が入らず行動も伴わない ・トイレで座位で排泄を促すも、指示が入らない ・座位になるまで見守りが必要、時間もかかってしまう ・他の患者対応もある為、急がせてしまう ・昼夜逆転、内服と日中の離床を促している 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症、高次脳機能障害によるもの ・夜間のせん妄も関係しているか ・急に人が来て、戸惑ってしまう→拒否や指示の入らないことに繋がる ・夜間の状況や理解ができているのか、わかりやすい声掛けや状況を理解できる関わりが必要 ・考えるスピードに時間がかかる ・理解が追い付いていない→入ってこない、理解に時間がかかる

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・急がせない、患者のペースに合わせた対応を行う
- ・3のないを意識して関わる
- ・患者がどうしたいのか見守る、寄り添った行動を行う
- ・患者の発信を見落とさない
- ・ユマニチュードの取り入れ、挨拶から行う、安心感を与える
- ・目的をくみ取って行動する
- ・違う話題や世間話を行ってから、本題へ促す
- ・目と目を合わせる、時間をかけて関わる
- ・スタッフ自身の話を行うことで信頼関係を気付く
- ・行動要因を探る、笑顔で声掛けで行動を確認する
- ・本人の要求を確認する

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- ・トイレの見守りで一緒に行く説明をしても忘れ、本人は自分で行けるという
- ・お風呂拒否で入力したがらない人
- ・入眠拒否の人で体格大きい人奥さんが居ないとセクハラなど大声がある
- ・おむつ交換時抵抗があって2人対応している
- ・家に帰りたがる人で夕方から言い出されることが多い

- ②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ※グループでまずは1つ決める

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
90代骨折 骨折の患者 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・デイルームなどで声かけし「今日は風邪をひいて」と言われる。 ・いつも具合が悪いなどいう ・トイレのあとでの声掛けだと拒否なく入浴 	寒いのが苦手 待たされるのが嫌 みんなで入るのが嫌 体の傷など見られたくない 体を触られるのが嫌 コミュニケーションの問題でいや 【外国人職員】

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・その人を知ってから関わる
- ・その人の背景をよく知る
- ・どうすれば落ち着いてくれるのかよく考える
- ・患者様の気持ちになって考える

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- ・内服を拒否されてしまい1時間説得したが吐き出されてしまった
- ・入浴拒否（NSからはいれてほしいと言わされたが）、声掛けすると易怒的になる（時間をずらす・スタッフを交代するなど工夫しているが）
- ・寝たくなくて寝ない（部屋にも行きたくない・家に帰りたい）
- ・食事を食べたくない（理由はその都度変わる）
- ・オムツ交換しようとすると拒否される
- ・介助されることそのものに拒否がある（排泄・更衣など様々な場面）

- ②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ※グループでまずは1つ決める

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
事例1 認知症がある患者：昨日入っている とは発言あり入浴拒否される80歳代	事例1 入浴の声掛けをした際	事例1 疲労感がある、気分的に面倒である、 本当に入っていると思っている、過去 に嫌な経験がある、入浴＝寒いと いうイメージがある、介助方法（自 尊心・羞恥心への配慮が不足して いた過去がある）、やりたいことが あって入らない
事例2 介助そのものに拒否がある：90歳代 女性、車いす見守りで小柄な患者、 介助するスタッフが男性だと距離が できてしまう 精神疾患がある40歳代女性	事例2 排泄・更衣介助しようとする場面 身体に触れられたくない	事例2 体格差・異性という点から威圧感が あった可能性がある スタッフのペースで介助している 年齢も若く自分のことは自分でやり たいという気持ちが強い

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・患者の気持ちを優先できるようにする
優先する上で拒否につながる理由・背景を確認する
- ・無理強いはしない（患者の意向を尊重する）
- ・多職種と情報共有しながら、介助の手を必要とせずに自立に繋げられる
よう支援する
- ・年齢なども考慮した上で対応するスタッフを調整する
- ・家族にも本人が大事にしていたこと（価値観・生活歴）を聴取してケア
に活かす
- ・当たり前のケアを実践がその人らしい生活を復活させるきっかけにする
(身だしなみを整えることが基盤になりそう)
- ・自分にとって味方であると思ってもらえるよう信頼関係を構築
基本的にはできることは自分で実施してもらうが、できたことを褒め
てできないところはそっと手を差し伸べる

追加議論

- 内服を拒否されてしまい1時間説得したが吐き出されてしまった
 - * 医師との相談
 - * 薬の形状について希望を確認
 - * 何を飲んでいるかあたらめて説明するなど何故内服できないか分析する
- 寝たくないから寝ない。寝るなら家に帰る
 - * 話の辻褄があまわなかつた患者が、入院中に家族が亡くなられた。それをきっかけに入眠できなくなつた。1人スタッフが付き添い、眠くなつたら場所を問わず休まれる
 - * ストレスを軽減する方法を検討する必要もある
 - * 患者の行動に寄り添う

認知症の患者に対して
介護職としてできることを
話し合ってみよう

【本日のテーマ】

認知症の症状を理解して日常生活のケアに活かそう

【GWの内容】

- ①認知症の患者が拒否をされて困った場面を
グループで共有
- ②グループの中で1つ事例を決め、背景を考える
- ③介護職として何ができるか話し合う

①認知症の患者に拒否をされて困った場面の共有

- ・入浴拒否 服装から拒否 2、3人でなんとか入っている
旦那さんからの協力あり現在は入浴している
- ・入浴拒否 介護職以外のスタッフの協力で解決
- ・介護拒否 車いす乗車拒否
- ・失禁介助拒否 「全員交換している」と声掛け
パット交換すること言わずに
- ・食事拒否

②グループで一番多かった困った場面を掘り下げる
 ×グループでまずは1つ決める

どんな患者 (年代・疾患など)	どんな場面	拒否をしていた背景に 考えられること
<u>脳梗塞</u> 認知症 70代 女性 <u>車いす</u> 歩行も可能 <u>好きな演歌歌手の動画見て過ごす</u> <u>旦那さんと2人家族</u> <u>旦那さんと仲良く毎日面会</u> <u>面会後は不穏</u> <u>全てのケアに拒否 大声</u> <u>暴言・暴力つねられる</u> <u>環境への理解できない</u> <u>急性期から転院</u> <u>施設待機中</u>	「入浴拒否」 以前は旦那さんと一緒に入浴していました 浴室まで旦那さんの力を借りて誘導入浴できた 場所に慣れてきて少し落ち着いた 午前中の方が落ち着いており、スタッフと少しずつ入浴できてきた 入浴中は落ち着いている 性別、スタッフによる拒否はなし	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない環境 ・病棟の音 ・旦那さんの存在 ・本人にとってのタイミングは ・浴室の認識 ・入浴の服装 ・日中の入浴 ・入浴時間が決まっている ・リハビリの前の入浴 ・1日の日程に沿った入浴時間だったのか ・入浴による疲労度

③介護職として今後何を大事にかかわっていけばよいか

- ・人、時間を変える、入浴剤などで楽しみに繋げる
- ・何が拒否に繋がるのかゆっくりして話す時間をとる
- ・心の安定
- ・生活歴、その人の立場に立って考える、寄り添う
- ・介護者の心の安定も大切
- ・患者さんのタイミングに合わせる、キャッチする
- ・生活スタイルの継続、環境調整
- ・相手を知る
- ・行動だけでなく背景を考える
- ・誘導の仕方（声のトーン、表情など）の見直し、ケアの統一